

1 概要

(1) 策定の趣旨

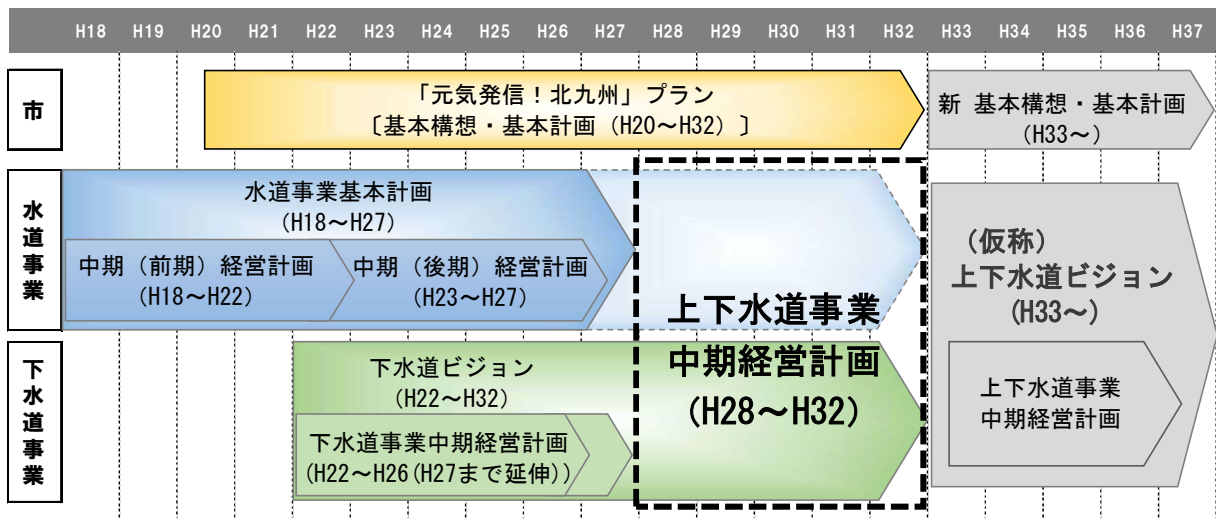
平成 24 年度の「上下水道局」発足を受け、統合による効果を活かしながら、市民サービスの向上、危機管理対策や健全経営などに努めているところです。

今般、水道事業及び下水道事業の各中期経営計画が完了することから、より一層、安全・安心で誰からも信頼される上下水道を目指すべく、「北九州市上下水道事業中期経営計画」を策定することとしました。

(2) 位置付け

本計画は、本市の基本構想・基本計画である「元気発進！北九州」プランをはじめ、「北九州市まち・ひと・しごと創生総合戦略」、「連携中枢都市圏構想」及び「北九州市公共施設マネジメント基本計画（社会インフラ版）」などの市の計画や、国の「新水道ビジョン」、「新下水道ビジョン」の目指すべき方向性を踏まえた5年間の計画（平成 28～32 年度）とします。

■北九州市上下水道事業中期経営計画の体系



(3) 基本理念

「北九州市水道事業基本計画」、「北九州市下水道ビジョン」のそれぞれの基本理念である「お客さまに信頼される水道」と「水めぐる“住みよいまち”をめざして」とします。

(4) 取組みの考え方

基本理念を実現するため、経年化施設の更新や地震・浸水対策などを推進し、安全・安定的な水の供給から汚水処理・雨水排除まで一連の水循環を担う、市民生活に直結する上下水道インフラの維持・強化に取り組めます。また、国内外の上下水道に関する課題解決や地域産業の振

興に貢献する、多様な形態の上下水道事業の広域化や海外水ビジネスを推進します。さらに、エネルギー効率の高い機器の導入、再生エネルギーの活用など環境負荷の低減に取り組めます。

こうした取り組みにあたっては、最小の経費で最大の効果を発揮し、効率的・効果的で持続可能な上下水道事業運営に繋げるため、事業を支える「人・モノ・カネ」の経営基盤の強化を図ります。

2 経営目標

今後は、料金収入の減少や更新需要の増加が予測されるなど、厳しい経営環境が見込まれます。このため、事業の経営にあたっては、より一層「選択と集中」に努め、さらなる経費節減や増収対策に取り組み、将来を見据え、持続可能な上下水道事業の構築を目指します。

安全・安心で質の高いサービスを提供し、

現行料金を維持 する

- ・上下水道料金は県内で一番安価
- ・工業用水道料金は指定都市で一番安価

3 対応すべき6つの課題

経営目標を達成しつつ、持続可能な事業運営を行っていくため、次に掲げる6つの課題に的確に対応していきます。

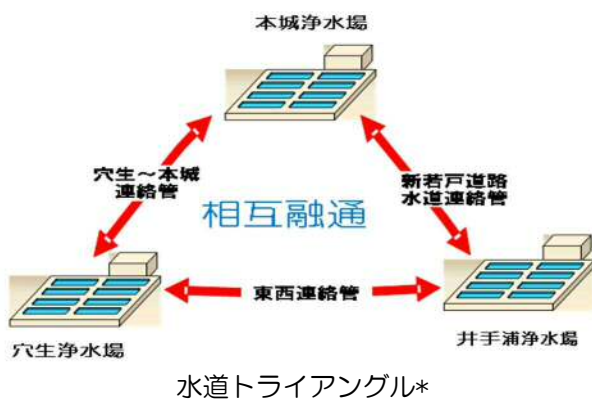
- ① 昨今の豪雨、地震などの災害の頻発化に備える
「災害等の危機管理対策」
- ② 高度経済成長期に急速な整備をした
「経年化施設の長寿命化・更新」
- ③ お客さまニーズの高い
「安全・安心でおいしい水の供給」
- ④ 温室効果ガスの発生量や川・海への汚濁負荷量を抑制する
「環境負荷の低減」
- ⑤ 本市が持つ技術力・経験を最大限に活かした
「国内外に貢献する上下水道」
- ⑥ 料金収入の減少などに対応するため
「収支バランスを踏まえた経営基盤の強化」

課題① 災害等の危機管理対策

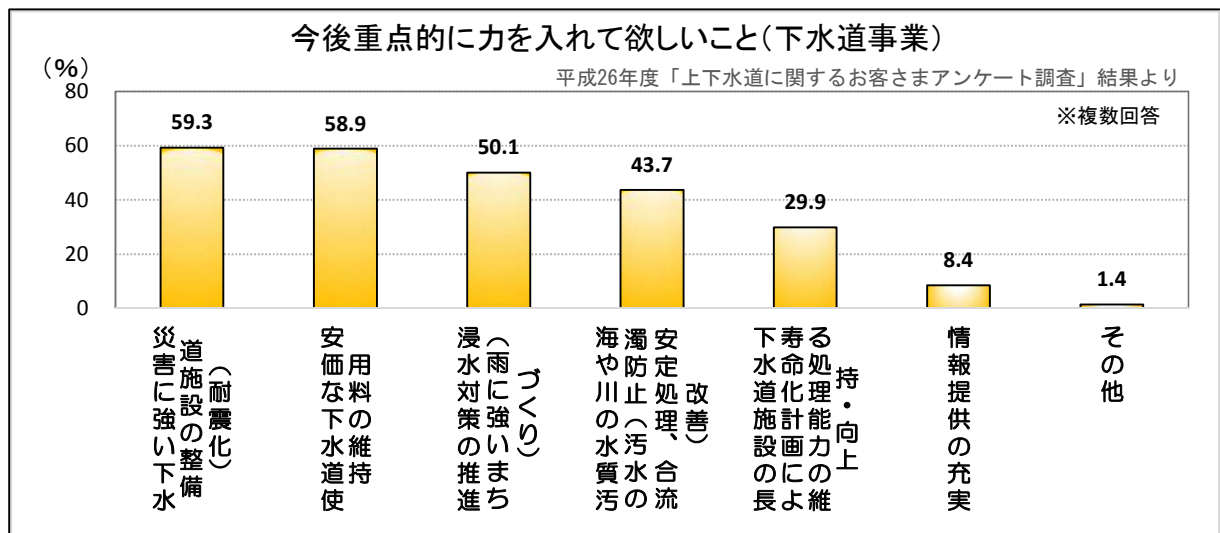
先の東日本大震災において、上下水道は市民生活に直結する重要なインフラであることが再認識されたところです。

大規模な災害などが発生した場合でも、安全で安定的な給水や下水処理を行えるよう、防災・減災の観点から、施設の耐震化やバックアップ機能*の強化を推進する必要があります。

また、近年の集中的な豪雨に起因する浸水被害の危険性が高まっていることから、浸水に対する安全度の向上を図る必要があります。



八幡西区浸水状況（平成25年7月）

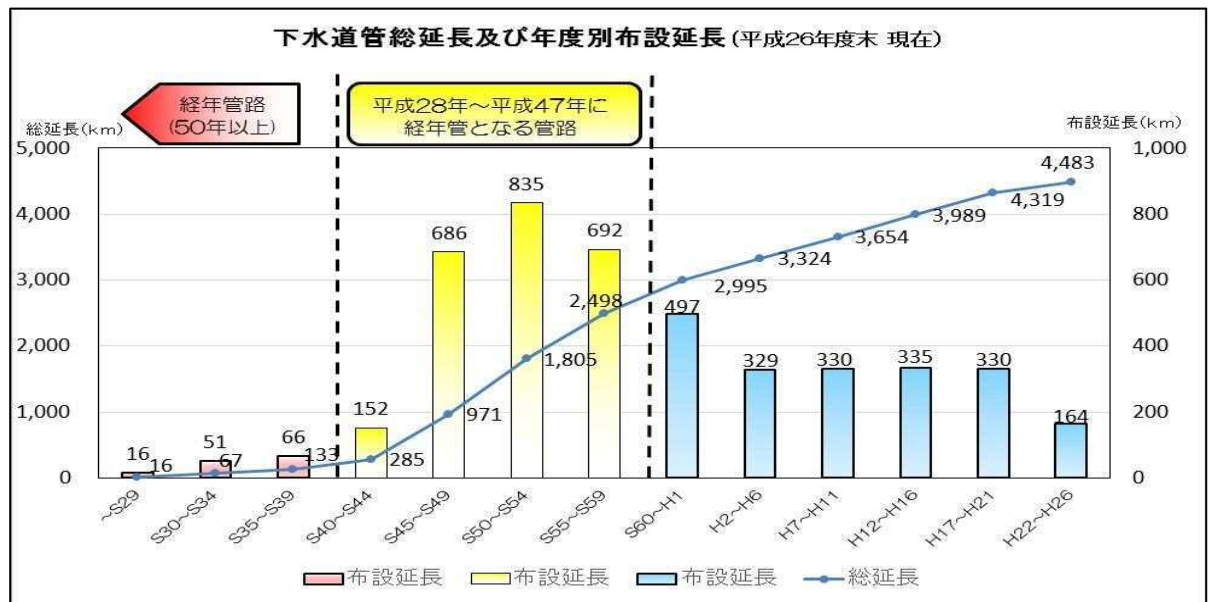


【対応】

- 安全で快適な暮らしを支えます。
 - ・ 震災対策の拡充・強化
 - ・ 豪雨対策の拡充・強化
 - ・ 事故対応能力の向上 など

課題② 経年化施設の長寿命化・更新

今後、高度経済成長期に整備した施設の多くが更新時期を迎えることから、可能な限り長寿命化を図る必要があります。更新に際しては、将来需要を考慮しながら、施設規模と機能の最適化を図り、重要度・優先度を踏まえた効率的・計画的な更新を行う必要があります。

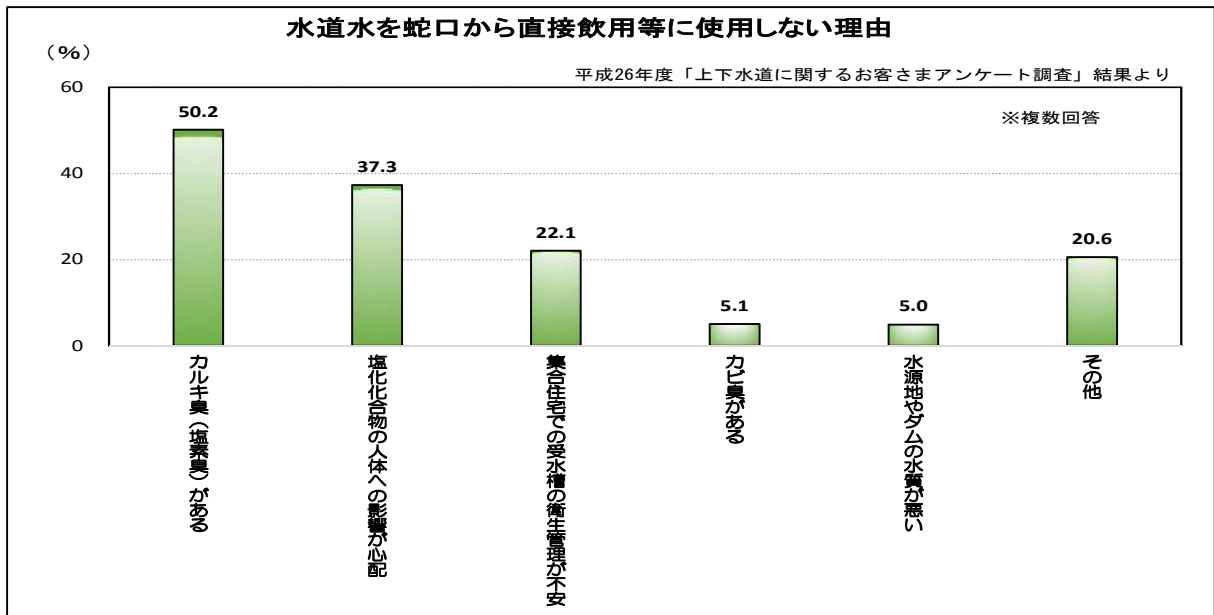
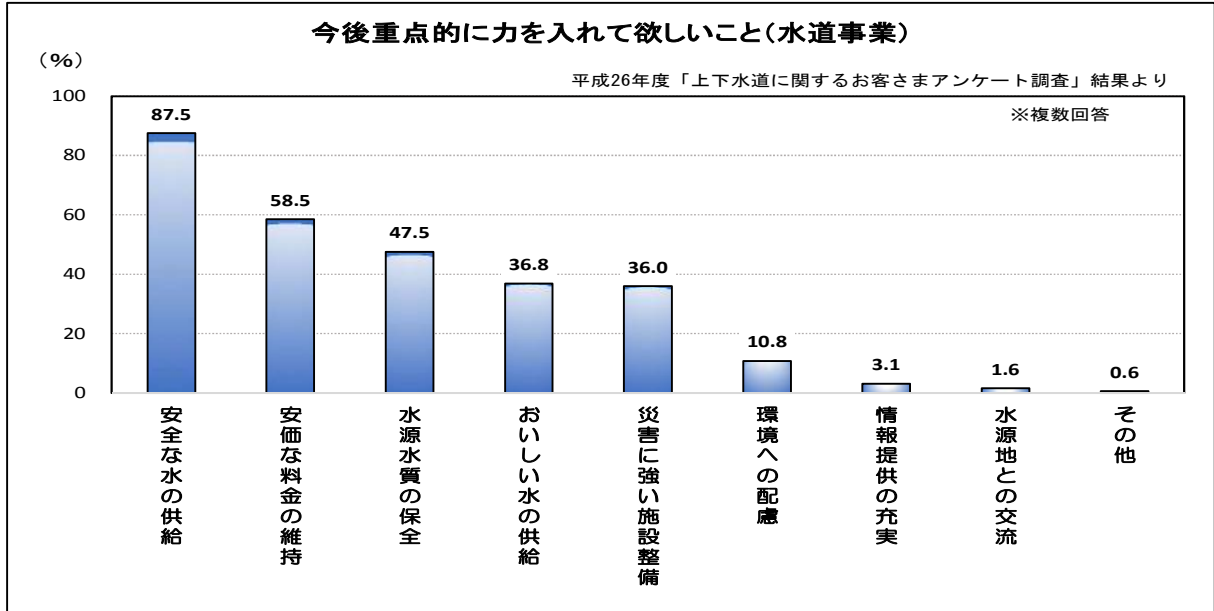


【対応】

- 将来にわたって使い続けられるように、上下水道の機能を維持します。
 - ・施設の効率的・計画的な更新
 - ・漏水防止対策の推進
- など

課題③ 安全・安心でおいしい水の供給

お客さまのニーズが高い「安全・安心でおいしい水」を常に供給できるよう、関係機関と連携して、水源水質の保全や直結式給水*の普及促進などに取組む必要があります。



【対応】

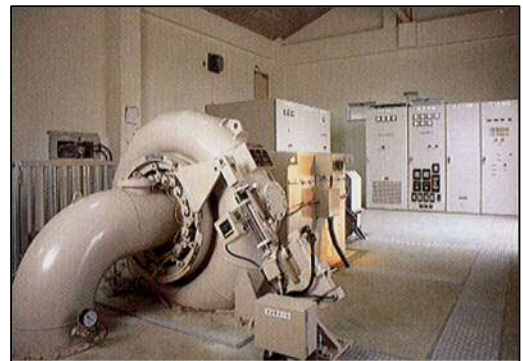
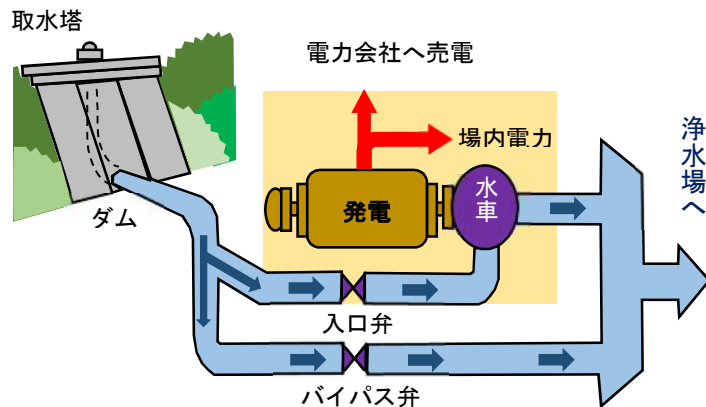
- いつでも安全で良質な水道水をお届けします。
 - ・水安全計画*の推進
 - ・水源水質の保全
 - ・直結式給水の普及促進
 - ・おいしい水対策 など

課題④ 環境負荷の低減

本市は「世界の環境首都*」を目指したまちづくりを進めており、上下水道事業としても、自然エネルギーの活用や汚泥の有効利用、エネルギー効率の高い機器の導入などにより、温室効果ガス*の発生量を削減するとともに、合流式下水道*の改善による川や海への汚濁負荷量*の削減など、環境負荷の低減を図る必要があります。

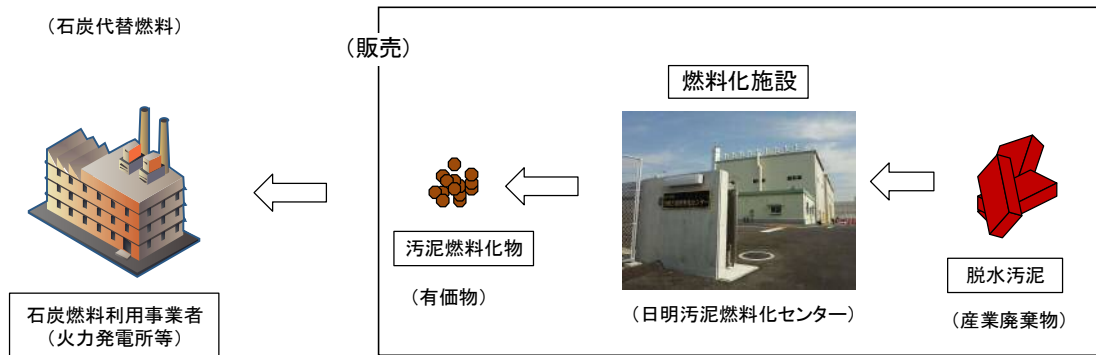
小水力発電

【水力発電のチャート】



ます漕発電所

下水汚泥燃料化*



- ・バイオマス*資源である下水汚泥から「汚泥燃料化物」を製造し、石炭代替燃料などとして有効利用します。
- ・下水汚泥の資源化を促進し、温室効果ガスの削減による地球温暖化*防止に努めます。

【対応】

- 水や資源の循環と低炭素化を進め、より良い環境づくりに貢献します。
 - ・水環境の保全
 - ・自然エネルギーの活用
 - ・省エネルギー対策
 - ・汚泥の有効利用 など

課題⑤ 国内外に貢献する上下水道

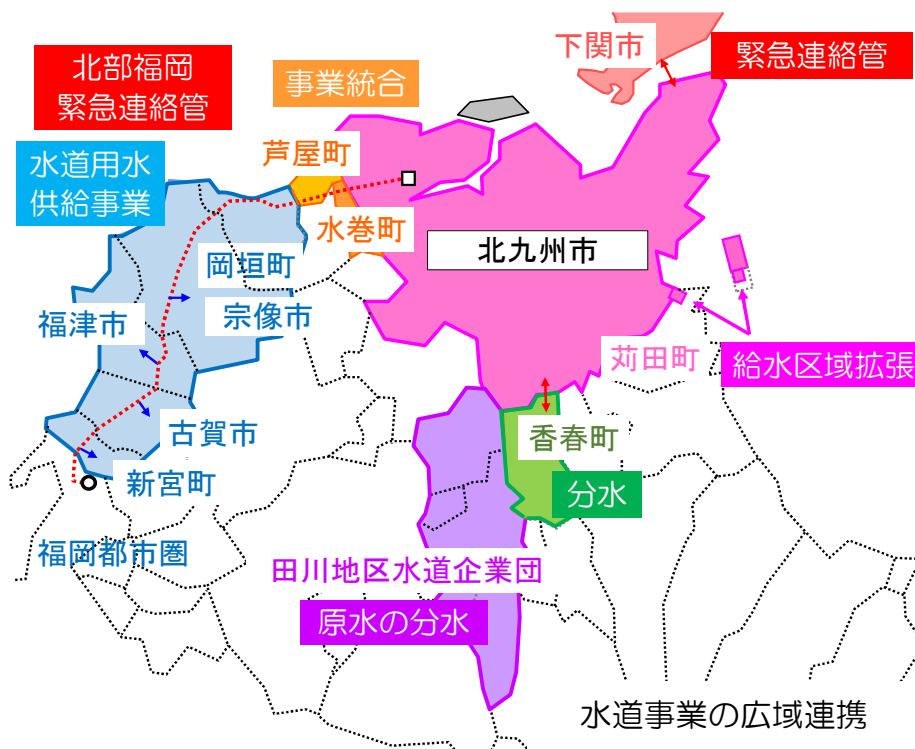
本市の持つ高い上下水道技術を積極的に国内外で活用するとともに、上下水道事業の広域化や海外水ビジネスなどを通じて、国内外の上下水道に関する課題解決や地域産業の振興に貢献する必要があります。



海外での研修状況



日明浄化センター管理棟（ビジターセンター）



水道事業の広域連携

【対応】

- 高い技術やノウハウを活用し、国内外に貢献します。
 - ・本市が持つ技術力・経験を活かした国際貢献
 - ・多様な形態による広域連携
 - ・市内企業、(株)北九州ウォーターサービスとの一層の連携強化 など

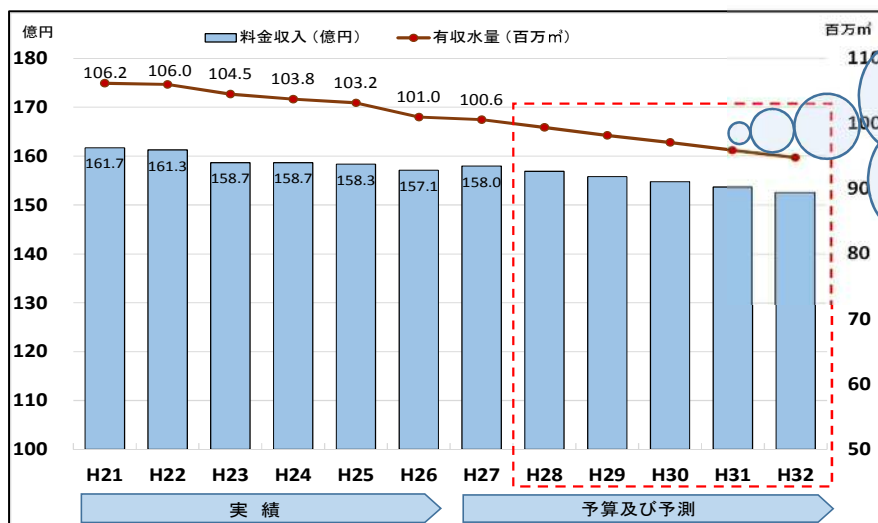
課題⑥ 収支バランスを踏まえた経営基盤の強化

人口の減少や節水機器の普及などによる水需要の減少に伴い、今後も、料金収入の減少が見込まれます。特に、水道事業においては、年間5億円の収入を確保していた田川地区水道企業団への原水供給が、伊良原ダム completionにより、平成29年度中に終了します。

このような状況の中、必要な事業を推進しながら、持続可能な事業運営を行っていくためには、より一層の経費節減や増収対策に取組み、経営基盤の強化を図る必要があります。

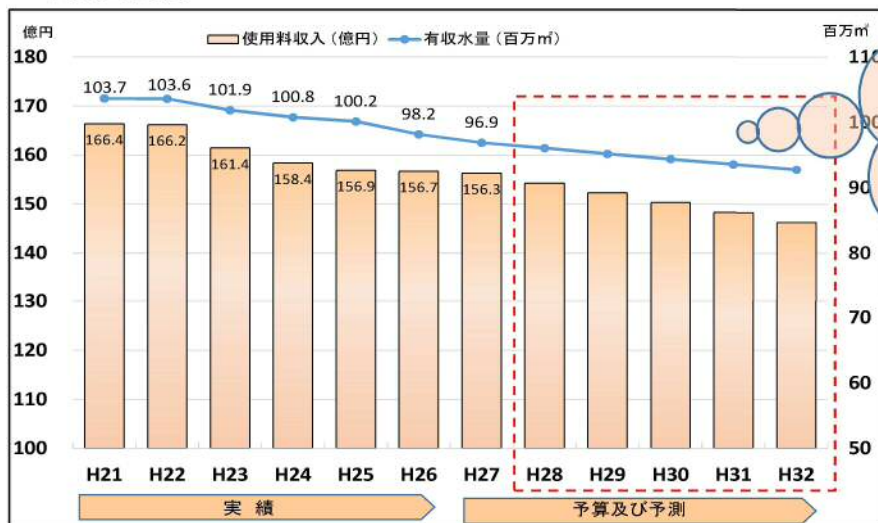
○有収水量*と上下水道料金収入の推移

・水道事業



過去の動向から推測すると、年平均約1.1億円の減収が見込まれます。

・下水道事業



過去の動向から推測すると、年平均約2.0億円の減収が見込まれます。

【対応】

- 事業を支える「人・モノ・カネ」の経営基盤の強化に努め、安価な料金を維持します。
 - ・ 外郭団体等の更なる活用
 - ・ 上下水道の資産・資源の有効活用 など